

2017年  
12/15  
(金)

天理大学大学院体育学研究科

2017年度公開特別講演

# 「エスノサイエンス身体論」

エスノサイエンス (ethno-science) 身体論はサイエンス (science) 身体論に対する言葉です。科学的に正しいかどうかは問わず、その民族が古くから伝えてきた伝統的な身体の捉え方を言います。私たちが学校で理科や体育の時間に習う身体論は医学に基づくものですが、日本や中国ではよく、経絡やツボや丹田という言葉を使って身体のことを考えます。具合の悪い時にツボに針を打ったり、また武術や日本舞踊の稽古では“気持ちを丹田に集中させて”といった指導を受けます。経絡やツボや丹田は、いくら体を解剖しても、その組織は確認されません。こうしたエスノサイエンス身体論は、世界各地におこなわれます。身体に対する関心が古くからいかに高かったがわかります。講義では、各地の具体的な事例や武術伝書に現れたものを紹介します。迷信と片づけないでください。近年、エスノサイエンス身体論が科学の側から評価され始めたのです。

講師

寒川 恒夫

早稲田大学スポーツ科学学術院教授

日時 12月15日 (金)

16:30~18:00

場所 天理大学体育学部

63B教室



経絡人形



チャクラ